



2010年11月10日放送

## 漢方頻用処方解説 当帰芍薬散②

大阪大学大学院医学研究科 漢方医学寄附講座 助教 岸田友紀

### 実際の症例について（文献の紹介）

当帰芍薬散については、多数の先生方が記載されています。全部はとてご紹介できませんが、使用目標などを踏まえてご発表されたことを、いくつかご紹介いたします。

大塚敬節先生は、当帰芍薬散について、不妊、腰痛や浮腫、腹痛などに用いた経験を発表されていらっしゃる。中でも、不妊については、症候による漢方治療の実際のなかで、「種々の治療の効のない場合などに、この方を内服させてやすやすと妊娠するものがある。この方を用いて、1-2ヶ月で妊娠するものが多く、10ヶ月間連用しても妊娠しない場合は温経湯、加味逍遙散、折衝飲などに変法してみるのもよい」として、症例を呈示されています。また、矢数道明先生も、同じく流産を繰り返す症例に当帰芍薬散を処方し、無事に出産させた経験を複数紹介されています。

寺師睦宗先生も、不妊治療を手掛けていらっしゃるご高名な先生ですが、先生は腹証・腹診を最重要視し、経験的に7つのタイプに分けて治療を行っていらっしゃいます。当帰芍薬散を使うタイプは、色白で痩せ型、虚弱で、めまい、立ちくらみ、頭痛、疲れやすいのが特徴と記されています。

龍野一雄先生は、「当帰芍薬散の適応は一番基本的なのは血虚、停水を主にしたものだ」と、漢方入門講座の中で述べた後、高血圧の症例と、低血圧の症例に当帰芍薬散を用いて正常血圧にもどした経験を紹介されています。また、痔、脱肛、蓄膿症、しもやけ、ひび、あかぎれ、にきび、湿疹、子宮脱にも、先ほどの使用目標にして処方すれば効果があると述べていらっしゃいます。

いずれも、ご高名な先生方が、ご自身の経験から、使用目標と共に著効例を提示されたものです。症例を提示された時代や病態の認識状況などを踏まえた上で、参考になさってもよいと思います。

## 薬理効果とその EBM

当帰芍薬散は、質の高い研究が多くなされており、英文論文も多くでています。

### 不妊治療について

藤井先生は、不妊症患者 93 人のランダム化比較試験を行い、体外受精時に当帰芍薬散を併用した効果について検討を行っています。その結果、採卵数・受精卵数・受精率には差がなかったものの、当帰芍薬散を用いると、卵巣刺激に用いる薬剤を有意に減量でき、採卵あたりの胚移植キャンセル率が五分の一に減ったと述べています。また、血中の FSH 濃度が、採卵時点で有意に高かったことも明らかにしています。

ラットを使った実験で小山先生らは、当帰芍薬散は、視床下部-脳下垂体-卵巣系を介して排卵に関与していることを報告しています。また、福島先生は、高プロラクチン血症モデルを用いた実験で、当帰芍薬散が間脳に作用して LH-RH 分泌を促進して下垂体から LH を分泌させることや、脳下垂体ドーパミンレセプターを刺激することで血中プロラクチンを低下させることを明らかにしています。また takei 先生らは胎児の子宮内発達遅延をおこさせた妊娠ラットに、当帰芍薬散を投与した実験結果を報告しています。当帰芍薬散を投与すると胎児の血中グルコースや growth hormone が上昇し、母体の血圧上昇を抑制したという結果でした。

### 月経困難症・月経前困難症

小谷先生らは、比較試験を行い、月経前に腰痛や頭痛を認める患者に対する当帰芍薬散の効果をしらべ、その結果当帰芍薬散では優れた鎮痛効果を認めたことを報告しています。海外の論文でも、月経前困難症に当帰芍薬散は、推奨度 B として取り上げられています。

### 認知症

Goto 先生らは、ランダム化比較試験を用いて、脳血管障害後遺症患者に当帰芍薬散を投与し、一年間にわたって追跡した臨床結果を報告しています。それによると、中等度の介

護度を要する脳血管障害後遺症患者に、機能低下と自立度低下を抑制するということでした。メカニズムの一つとして、Hagino 先生は、当帰芍薬散をラットに投与すると、大脳皮質や海馬など記憶に重要な役割を果たす部位のアセチルコリン受容体やカテコラミン類が増えることを報告しています。また、当帰芍薬散を投与したマウスの実験で、記憶学習能が改善することも報告しています。

当帰芍薬散の原典には、単純な記載しかありませんが、現代では、このように多岐に応用することができるといえるでしょう。

### 自験例

それでは最後に症例を示します。

症例は30歳の女性。主訴は、月経痛、月経前のいらいら、頭痛、腹痛、下肢のむくみ、それに伴う下肢の鈍痛です。月経痛は月経開始から2-3日は鎮痛剤を必ず服用しないと日常生活を送れないとのことでした。高校生の頃から、月経の5日前ほどからこの症状に悩まされてきたようです。軽度の手足の冷えを自覚していましたが、食欲や睡眠、便通など他にはなにも困っていませんでした。

身長は162cm体重48kgですらりとした体格で、やや浅黒い顔色でした。腹診では下腹部に瘀血の圧痛点と腹直筋の緊張をみとめました。脈は沈、舌診では淡白色の舌を認めた以外はとくに所見はありませんでした。

教科書的な当帰芍薬散証ではありませんでしたが、月経前に頭痛やむくみがあるということから水の異常が存在していること、月経周期に関連していることから血の異常が存在していることを考えて、ツムラ当帰芍薬散一日7.5gを処方しました。

3週間後に再診すると、今回は月経痛も頭痛も楽で、鎮痛剤を一度も使わずにすんだといえます。ただ、月経前のむくみはあまり軽減しなかったとのことだったので、月経前に五苓散を頓服してもらうことにしました。その後、月経前の頭痛や月経痛は次第に軽減し、最初当帰芍薬散7.5gであったのが、一日5gでよくなり、やがて患者さん自身が当帰芍薬散と五苓散を使い分けて頓服的に服用するだけで、コントロールがつくようになり、結局、初診から8カ月で廃薬になりました。

当帰芍薬散は、男女問わず、幅広い応用が可能な処方の一つです。私の解説が、当帰芍薬散の奥深さを知って頂ける一助になれば幸いです。